今、やらなければならないこと。

せきたか通信／号外

長岡市議会議員
関たかし

関たかしプロフィール

昭和 41 年	長岡市信濃２丁目に生まれる
昭和 54 年	長岡市立中島小学校卒業
昭和 57 年	長岡市立東中学校卒業
昭和 60 年	新潟県立長岡高等学校卒業
平成 元 年	滋賀大学経済学部卒業
平成 元 年	日立化成工業㈱　入社
平成 3 年	衆議院議員秘書
平成 9 年	高野不動産㈱　入社
平成 11 年	同社退職

平成 11 年　長岡市議会議員初当選
平成 26 年 2 月現在　四期目

編集後記

せきたか通信号外の発行も４年ぶりになります。この４年間いろいろな事がありました。自然災害、人災、政権交代…。いろいろな事が起きて私達の周りにも変化が訪れています。
自分たちの生活はどうでしょうか？ 残念ながらあまり良くない方向に変わっているのかな？ と感じる部分もあります。

もっと皆が幸せに楽しく暮らせる社会へ変えていくことはできないだろうか？ そのために何が必要でしょうか。政治改革？ 強力なリーダー？ 社会の構造改革？……関たかしは、まずは一人ひとりが変わることだと言います。

大人も子どもも自分を見つめなおし自分を認める。自己肯定感が高まれば自然と人にも優しくなれるし、どんなときも、子どもや自分や周りの人の心を大切にする事ができる。

政治や社会の大変革ももちろん大切だけど、まずは一人ひとりが変わる事。そしてそんな一人ひとりが変わるキッカケを長岡の市政という場所から作っていく。そんな使命に燃えている関たかしを見て頼もしく思う今日このごろです。　（多川 記）

関たかし後援会
TEL/FAX 32-0756
http://www.sekitaka.net/
自　宅　　：長岡市信濃 2-10-43
事務所（臨時）：長岡市日赤町２　ウオロク向かい

※ご入会いただいた方には活動報告書「せきたか通信」を年１回お届けいたします。

関たかしの実績（一部）

関たかしが関与した活動のなかから、一部を選んでお知らせします。

政治改革

- ◆政務活動費の返納　15年間で11回の返納。使途の適正化
- ◆公費による議員の海外視察の休止
- ◆会派無所属

環境分野

- ◆長岡市環境基本計画の改訂　温暖化対策の強化など
- ◆学校での環境対策
  学校給食の地産地消化、紫外線対策、食器・床ワックス・トイレ消臭剤の切替、薬剤散布の低減、校内禁煙、環境共生学校への取り組み、緑のカーテン
- ◆住宅地での農薬使用低減の周知を強化
- ◆バスの利便性向上
- ◆コンパクトシティへの転換
- ◆新エネルギーの導入

心と教育の分野

- ◆教育への取り組み
  子どもの自己肯定感を高めるために、大人の自己肯定感を高める必要があると、教育委員会も認識。危機感は持たせても不安感を持たせない、子どもたちへの安全指導。
- ◆子育ち支援の充実
  親への子育て支援＋子どものための子育ち支援
- ◆スクールカウンセラーの充実
- ◆自己理解型研修による教員と市役所職員の意識改革
- ◆市役所職員からファシリテーターを養成

財政分野

- ◆健全財政の堅持
- ◆橋の長寿命化対策

災害関連分野

- ◆災害時の情報提供の迅速化
- ◆道路冠水時の通行止め対策
- ◆雨水一時貯留槽の設置
- ◆道路排雪の効率化

その他

- ◆長岡市総合計画の改訂
- ◆市と東京電力との安全協定の締結
- ◆市民からの要望や苦情への対応強化

関たかしの最近の主張

- ◆脱原発
- ◆行政の合意形成手法に反対
- ◆「アオーレ長岡」建設に反対
- ◆40万人都市構想に反対

私が無会派・無党派を貫いている理由

長岡市議会には会派といういくつかの議員グループが存在しますが、私は初当選からどのグループにも属していません。また、どの政党にも属していません。それは、私の公約の一つである「政治風土の改革」をなすために、無所属でいること、無所属で発言すること、無所属で結果を出すことが必要だと考えているからです。

持続可能な社会

を目指すための、具体的な取り組み

新しい価値観による、新しい街づくりを目指し、私「関たかし」は市政を通じて、主にこれらの事に取り組みます。

環境分野

緑の公共事業	環境破壊を進める事業から、自然を回復する逆公共事業へ。
公共交通	バス停に屋根を架ける。路地に入るミニバス路線。運賃低減。等
化学物質	安全性が疑われる化学物質を減らします。
低炭素社会	市内からの温暖化ガス（二酸化炭素など）を削減。

財政・経済分野

地消地産	生活の基本であって、地元で消費する「衣・食・住・エネルギー」をできるだけ地元で生産。 地域でモノとお金をまわす。
コンパクトシティ	維持費のかからない都市で、高齢化や地球温暖化にも対応できる

心と教育の分野

教育を変革	「教育基本法第1条（教育の目的）教育は、人格の完成を目指し…」の実践 子どもの自己肯定感の向上と、そのために子どもを取りまく大人たちの自己肯定感の向上
行政の価値観を変革	自身を見つめる自己理解型研修を通しての風土改革

政治改革

草の根政治	利益誘導政治でなく、理念や政策を訴える政治へ
議会改革	会派（議員グループ）中心の議会から、議員中心の民主的議会へ 政務調査等の議員権限の適正化

持続可能な社会とは

大競争やファストが要求されるグローバル経済＋共生やスローが実現できる地域内経済

持続可能な社会、スローな生活などというと、経済も停滞してしまうのではという不安をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、現在のグローバリゼーションを前提とした経済・生活様式の中に「ロハス(※)」を融合させ、今よりも少しスローな社会を作ることで、持続可能なまちづくりができると考えます。 ※ロハスとは、健康と持続性を重視した生活様式のこと。

少しスローな経済

地産地消を衣・食・住・エネルギーの地消地産に発展させることにより、県外・海外との競争を緩和し、安心安定したスローな地域内経済循環をつくることができます。

少しスローな交通

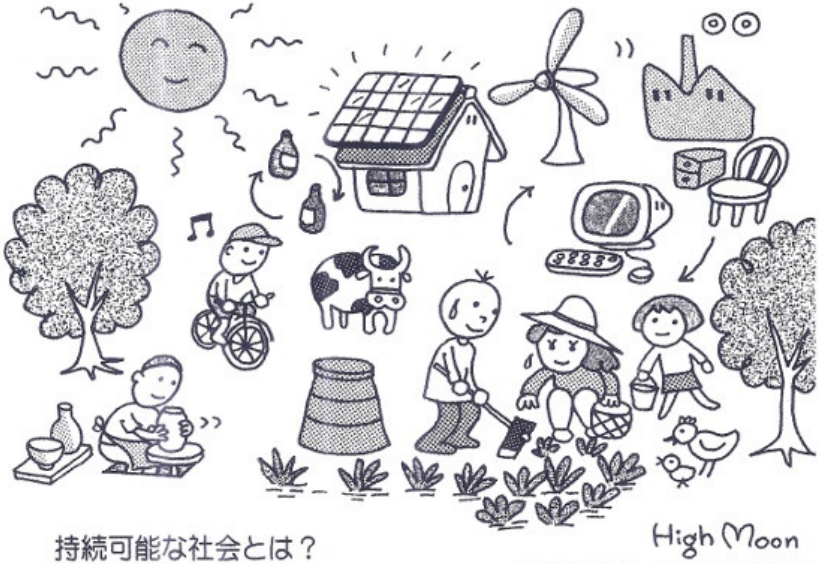
公共交通をもっと便利にすることて、自動車中心の社会から電車やバスで移動できる社会へ。移動中に読書や会話ができるし適度な徒歩により健康に良い、スローな交通が実現できます。

少しスローな子育て

スロー経済にすることて、家で過ごす時間が増え、親が子と向き合える時間が確保されます。それは子どもにとって何にも替えがたい教育環境となるのではないでしょうか。従来の、親のための子育て支援に、子どもが健全に育つ環境を整える子どものための子育ち支援の観点をプラスしなくてはなりません。

少しスローな地域社会

老若男女が地域の活動に参加できるようになり、人と人との絆やつながりが生まれ、顔の見える安心感や心の豊かさが芽生えます。
スローな社会や生活のなかて、各々が自分を見つめ直す（自己理解）ことや、そのきっかけとなる気づきを得ることて、各々の自己肯定感が高まっていく社会になります。



持続可能な社会とは？

高月紘 著：絵コロジー（合同出版株式会社）より

一人ひとりが
幸せを感じられる
心ゆたかな社会を目指して。

具体的な取り組み（裏面へ）

持続可能なまちづくりに必要なものとは。

持続可能な社会へ

モノは豊かになり生活は便利になりましたが、幸せを感じる人は減り、不安を感じる人が増えています。

「このままでは地球が危ない」と言われるほど環境問題も深刻です。これまでの価値観によってつくられた現代社会に行き詰まりが見えています。新しい価値観で、一人ひとりが輝ける新しい社会を構築しましょう。

「豊かなライフスタイル」 High Moon

高月紘 著：絵コロジー（合同出版株式会社）より

先の見えない現代社会の根本を変革

新しい社会を構築していくために必要な「価値観の転換」とは？

今までの価値観	新しい価値観への転換	新しい価値観
ファスト（あわただしい）	→	スロー（穏やか）
経済中心	→	人間中心
組織の理論	→	個人の思い
成長	→	安定・持続性
部分適合	→	全体適合
争い	→	助け合い
モノお金の豊かさ	→	心の豊かさ
画一性	→	多様性
お金による人間関係	→	絆・思いやり
他人との比較、人からの評価	→	自分らしさ、やりがい
いつか、誰かが	→	今、自分が
今だけ、自分だけ	→	未来の、みんなの

長岡だからできる！自己肯定感を高め、価値観を変えるまちづくり

新しい価値観に脱皮するためには、一人ひとりの自己肯定感の高まりが必要になります。自己肯定感とは「生きていていいんだ、自分には価値がある」という自尊感情で、肩書やお金などの表面的なものではなく、自身の命そのものの絶対的な尊厳を自分で感じ、自然に湧き出てくるものです。

自己肯定感が低いと他者との比較に焦点を当てた価値観や生き方になる場合が多く、その不安感がストレスとなり、時には他者に攻撃的になってしまったりします。

自己肯定感の高い人は、他者肯定もできるので、人を育てることができます。ですから、自己理解や気づきの機会を増やし、自己肯定感の高い人が増えることで、正の連鎖が生まれ、持続可能な社会が実現します。

幾度も戦災や震災などに見舞われ、目に見えるモノは失いましたが、精神（心）を大切にして復興してきた長岡こそが、これらを始めるにふさわしいまちだと思うのです。

今、何が問題なのか？そして、何をすべきなのか？